

東京・福島

国際シンポジウム

3・11から9年

どう伝える？ 原発事故のこと

東京電力・福島第一原発事故から9年、
オリンピック目前の3.11を迎えようとしています。
原発事故の現状を「見える化」し、どのように次世代に伝えていくか。
私たちに問われている課題について、
当事者や国際ゲストとともに議論します。

最新情報は
こちらから
ご確認ください



東京

日時：2020年**3月11日**(水)10:30～20:00

場所：聖心女子大学 ブリット記念ホール
(東京メトロ日比谷線広尾駅 4番出口から徒歩1分)

参加費 全日参加：1000円(全日)、1セッションのみ参加：500円
避難者の方、障がいのある方、高校生以下、FoE Japanサポーターの方は無料

主催：FoE Japan、ピースポート、フクシマ・アクション・プロジェクト

後援：パルシステム生活協同組合連合会、生活クラブ事業連合生活協同組合連合会、生活協同組合パルシステム東京、生活クラブふくしま、ドイツ大使館、ベルリン市

協力：聖心女子大学グローバル共生研究所、フリードリヒ・エーベルト財団、みんなのデータサイト、ふくしま地球市民発信所、ふくしま30年プロジェクト

協賛：飯館村放射能エコロジー研究会、開発教育協会、国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン、原子力規制を監視する市民の会、原子力市民委員会、原子力資料情報室、原発事故被害者団体連絡会(ひだんれん)、原発事故被害者の救済を求める全国運動、さようなら原発1000万人アクション、首都圏反原発連合、高木仁三郎市民科学基金、東京・生活者ネットワーク、日本国際ボランティアセンター、パタゴニア日本支社、避難の協同センター、未来の福島こども基金、株式会社ラッシュジャパン、JIM-NET(日本イラク医療支援ネットワーク)

連絡先：国際環境 NGO FoE Japan 東京都板橋区小茂根1-21-9 Tel：03-6909-5983 E-mail：info@foejapan.org



福島

日時：2020年**3月14日**(土)～**15日**(日)

14日(土)13:00～18:00(予定)

場所：チェンバおおまち3F 多目的ホール(福島市大町4-15)

15日(日)10:00～18:15 場所：福島県文化センター
(福島県福島市春日町5-5)

※福島では両日も参加費は無料

東電・
福島第一原発事故
「見える化」プロジェクト
ご寄付
募集

復興やオリンピックの陰で、着々と福島原発事故の「見えない化」が進んでいます。
FoE Japanでは、東京オリンピックの年である来年2020年にあわせ、
原発事故被害を「見える化」し、国際的に情報を発信していくプロジェクトを立ち上げます。
このプロジェクトを実現するために、みなさまのご寄付を呼び掛けています。

目標額：300万円

郵便振替口：00130-2-68026 口座名：FoE Japan

<http://www.foejapan.org/energy/fukushima/190505.html>



東京

日時：3月11日(水) 10:30～20:00
場所：聖心女子大学 ブリット記念ホール

プログラム(予定)

- 10:40～ セッション ① 「福島の今」
12:10 福島市に居住するお母さん、長谷川健一さん(飯館村)、大賀あや子さん(大熊町から新潟県に避難) ほか
- 13:30～ セッション ② 「被ばく労働」
15:00 あらかぶさん、ごぼうさん(元原発作業員)、ウラディミール・セドニョフさん(元リクヴィダートル) ほか
- 15:30～ セッション ③ 「どう伝える? 原発事故のこと」
17:15 後藤忍さん(福島大学准教授)、崎山比早子さん(高木学校)、小山貴弓さん(みんなのデータサイト)
- 18:00～ ライブ 原発ゼロノミクス
- 18:30～ セッション ④ 「私たちがつくるエネルギーの未来」
20:00 ベルト・フォスさん(独州議会議員) ほか



福島

日時：3月14日(土) 13:00～18:00
場所：チェンバおおまち

「チェルノブイリの経験から」(仮)
アレックス・ローゼンさん
(IPPNW ドイツ代表)
ウラディミール・セドニョフさん
(元リクヴィダートル) など予定



日時：3月15日(日) 10:00～18:15
場所：福島県文化センター

プログラム(予定)

- 10:10～ セッション ① 「福島の今」
12:00 武藤類子さん(三春町在住)、青木美希さん(朝日新聞記者)、糸長浩司さん(日本大学生物資源科学部 特任教授)、菅野哲さん(飯館村村民)
- 13:00～ セッション ② 「隠された初期被ばく」
14:30 菅野みずえさん(浪江町から関西に避難)、種市靖行さん(整形外科)
- 14:45～ セッション ③ 「どう伝える? 原発事故のこと」
16:30 後藤忍さん(福島大学准教授) ほか
- 16:45～ セッション ④ 「私たちがつくるエネルギーの未来」
18:15 ベルト・フォスさん(独州議会議員)



飯館村村民、元酪農家

長谷川健一さん

原発事故当時、飯館村前田地区の区長。同年8月、伊達市伊達東仮設住宅に避難。村民の約半数が申し立てた原発被害糾弾飯館村民救済申立団の団長を務めた。現在は、飯館村に帰還し、そばの栽培など農業復興に携わる。



元リクヴィダートル(ベラルーシより)

ウラディミール・セドニョフさん

1957年、ミンスク近郊のクラブキに生まれる。チェルノブイリ原発事故後、事故炉にて収束作業に携わる。火力発電技術士。事故時は26歳で2人の子どもがいた。



福島大学准教授

後藤忍さん

福島市在住。専門は環境計画、環境システム工学、環境教育。福島第一原発の事故後、福島大学放射線副読本研究会を組織し、独自の放射線副読本を作成。また、福島県環境創造センター交流棟「コミュニティ福島」とチェルノブイリ博物館の展示内容の比較なども行っている。



元原発作業員

あらかぶさん

2011年10月、福島・東北の復興のためにとの思いから、福島へ。東電福島第一原発の収束・廃炉作業に従事する。2014年1月、危険手当の不払いを契機に福島から帰った直後、電離健康診断で白血病が判明、入院治療。収束・廃炉作業で初めての被ばく労災が認定される。現在、東電・九電を相手に損害賠償請求裁判を闘っている。



IPPNW ドイツ代表・小児科医(ドイツより)

アレックス・ローゼンさん

小児科医。2017年よりIPPNWドイツ代表。福島原発事故による放射線の健康影響について、論文執筆多数。また難民支援活動にも携わる。日本でのオリンピック開催とそれによる放射能問題の軽視に警鐘を鳴らし、ドイツや欧州で情報共有を呼びかけている。



三春町在住・福島原発訴訟団団長

武藤類子さん

1986年チェルノブイリ原発事故を発端に脱原発運動に加わる。2003年原発から遠い暮らしを提案する里山喫茶「燦(きらら)」を開店するも、福島原発事故で閉店。2012年東電旧経営陣の原発事故の責任を問う「福島原発訴訟団」を設立し、刑事告訴を行う。2015年原発事故被害者団体連絡会を設立。



朝日新聞記者

青木美希さん

北海道新聞で「北海道警署金問題」、朝日新聞で「プロメテウスの罠」「手抜き除染」報道を手がけ、新聞協会賞を3度受賞した。「原発事故は地域を丸ごと地図から消し、住民を過酷な状況に追いやる」と浪江の方の言葉で名付けた近著「地図から消される街」(講談社)は貧困ジャーナリズム大賞、日本医学ジャーナリスト協会賞特別賞などを受けた。



浪江町から関西へ避難

菅野みずえさん

自宅は事故を起こした東電福一から27km帰還困難区域となり、浪江町から関西へ避難。畑を耕しながら浪江町の続きを暮らす。「事故を黙らない。それが67歳の私にできる原発を許した世代の責任の取り方だと思っています」という気持ちで、原発事故当時について各地で講演している。